

キャラクター名 三好 心 (みよし しん) プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ ブラックドッグ		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	15	性別	男
覚醒	命令	衝動	恐怖	初期侵食率	36	%
出自	待ち望まれた子	経験	平凡への反発	邂逅	幼子	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	12
感覚	4	1	0			5	(非装備時)	12
精神	2	0	0			2	戦闘移動	17
社会	0	0	1			1	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	10	8	RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
リニアキャノン	射撃	5r+16		8		イニシアチブにオートで装備、ドッジダイス-2
攻撃	射撃	8r+16		8		天からの眼
攻撃100	射撃	9r+16		8		天からの眼
回避	射撃	8r+18				C値-2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロックオンサイト					
UGN幹部					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	マス	消費
遺産継承者: 海鳴の石板	P	N			
UGN	P 忠誠	N 脅威			
春場 恵一	P 親近感	N 嫉妬			
コガレ様	P 好奇心	N 嫌悪			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	2	残り財産P:	1		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
リフレックス:ブラックドック	2	2	リアクション	至近	自身	-	-	
効果:	EA132、リアクションC値-Lv (下限7)							
ゲットダウン	1	2	リアクション	至近	自身	対決	-	
効果:	EA39、射撃でドッジ可能							
天からの眼	3	2	メジャーリアクション	-	-	対決	-	
効果:	EA23、ダイス+Lv							
鏡の中の人形	2	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	EA21、対象がドッジ失敗したとき使用、代わりにドッジ判定をし、成功で対象が避けたことにする。							
ハードワイヤード	5	基+4	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	EA40、ブラックドッグ専用アイテムLv個取得							
ミスディレクション	1	5	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	EA24、対象が行う「範囲」または「範囲 (選択)」の攻撃判定が行われる直前に使用する。その攻撃の対象を単体に変更する。対象は改めて選択させること。							
真昼の星	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	EA27、遠いところも見える							
小さき密偵	★	1	メジャー	-	-	自動	-	
効果:	RW34、小型ドローンで狭いところも調査可能。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一人称ばく 二人称お前 (目上あなた)

UGNの実験によって生まれたクローンの一体。
遺産「海鳴の石板」の継承者。その影響で感情論より合理性で動く。
遺産継承はFHとの遺産を巡る戦いの中やむを得ず契約した。遺産の力を恐れている。
いつもへらへらしているが、何か楽しいとかさういうわけではなく、
笑うことによって健康になるらしいということを聞いて笑っているだけである。合理主義。

PC③④用ハンドアウト
ワークス/カヴァー: UGN関係者/高校生
ロイス: コガレ様 推奨感情: 好奇心/嫌悪
恋ヶ丘学園で噂の恋のおまじない“コガレ様”。キミ達はそのおまじないを試すことにした。
しかし正しい手順を踏み。しばらく待ってみてもなんの変化も起こらない。
キミ達とその場を去ろうとした瞬間、魔法陣から桃色の煙が立ち込める。
そして煙が晴れた時、キミ達の前には奇妙な風貌の自称妖精「コガレ様」が立っていた。

「ナンゴヨ! ヒヤナラカIIII!」